

要 旨

2017 年、生物科学分科会は、生物科学分野教育用語検討小委員会を設置し、高等学校教育において用いられる生物科学分野の用語について検討を行った。これにより、学習の指針となる「最重要語」及び「重要語」が選定され、その成果は「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」として報告された。この報告は、2019 年に改訂された学習指導要領及びその解説でも参照され、重要語の過度な増加を抑制するだけでなく、生物の学び方に関する方針の提示にも貢献した。

その後、報告で選定された用語について、生物科学に関わる学協会等から多様な意見が寄せられた。これを受けて生物科学分科会は再び同小委員会を設置し、寄せられたフィードバックを慎重に審議した上で重要用語の見直しを行い、「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂版）」を 2019 年に公表した。

さらに、それから 6 年が経過し、生物科学の進展を踏まえ、教科書に記載される内容との整合性を一層高める必要が生じた。こうした状況を踏まえ、第 26 期基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同のもとで生物科学分科会は再改訂作業を行い、「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（2025 年版）」として取りまとめ、公表することとした。

1 これまでの経緯と現状及び問題点

2016 年 12 月の中央教育審議会の答申を受け、日本学術会議は基礎生物学委員会と統合生物学委員会の合同により、生物科学分野教育用語検討小委員会を設置した。この小委員会は、高等学校の生物教育において学習すべき重要用語を選定し、生物が暗記科目ではないというメッセージを発信することを目標とした。2018 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領では、「生物基礎」で 200～250 語、「生物」で 500～600 語の重要用語を中心に指導することが記載された。さらに同年 7 月に公表された学習指導要領解説では、日本学術会議による報告が参考にされたことが明記された。

第 24 期においても同様に小委員会が設置され、2019 年には最重要語 251 語、重要語 243 語の合計 494 語からなる重要用語リスト（以下、2019 年版重要用語リスト）が示された。改訂された学習指導要領に基づき、高等学校の教科書が順次出版されたが、それらの教科書では 2019 年版重要用語リストが参考にされたものの、実際の記載状況はこのリストの内容や位置づけと必ずしも一致しておらず、教科書ごとに重要用語の扱いにも差が見られた。

2 今回の報告の改訂のねらいとポイント

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会が 2019 年に報告した「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂版）」には、学問の進展や研究者・教育関係者からのフィードバックを踏まえ、今後にも必要に応じて改訂していくべきことが示されている。この方針に基づき、生物科学学会連合（以下、生科連）の生物教育・大学入試問題検討委員会は、生科連に加盟する学協会に対して、2022 年に「生物基礎」、2023 年に「生物」の重要用語の要望調査を行い、寄せられた意見や現行の教科書で使用されてい

る用語を参考に、2019 年版重要用語リストの再検討を行った。重要用語の選定に当たっては、学習指導要領の単元構成の変更や指摘事項を考慮し、令和 3 年（2021 年）検定の「生物基礎」及び令和 4 年（2022 年）検定の「生物」の全教科書の掲載状況を重視した。また、小・中学校で学習済みの用語のうち、高等学校でさらに深く学習する必要があると判断されたもののみ残し、そうでないものは削除した。さらに、一般用語として広く通用する語は削除し、生物名・地質時代・病名などの用語も対象から除外して、英語名は単数形に、分類に関わる用語は複数形に統一した。これにより、最重要語 197 語、重要語 264 語、合計 461 語からなる重要用語リスト（以下、生科連版重要用語リスト）を発表した。

この提案を受け、第 26 期基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会において、生科連版重要用語リストを再度検討し、必要な追加・修正を行った上で、学習指導要領に記載のある用語の一部を復活させた。最終的に最重要語を 201 語、重要語 288 語の合計 489 語を、高等学校の生物教育において学習すべき用語として改めて選定し、重要用語リスト（以下、2025 年版重要用語リスト）として報告する。

本報告は、前回（2019 年）の報告と同様に、重要用語リストに選定されなかった用語について、教科書での使用や高等学校の生物教育の現場での扱いを控えるよう求めるものではない。本リストのねらいは、生物を暗記中心の科目とせず、本質的な理解を重視する学びへと導くために、教科書において、ゴシック体で示される語（いわゆる「重要用語」）の数を適切に絞り込み、学習内容の重点を明確にすることである。特に、高校生にとって特段の影響力を持つ大学入学者選抜においては、細かな用語の記憶の有無で合否が左右されるような出題を避け、知識をもとにした理解力や思考力を問う設問とすることが望ましい。そのため、このリストに含まれていない専門用語を出題に用いる場合には、過度な負担を避ける観点から、その語に適切な説明や脚注を付すことを提案している。そして、最も重要なねらいは、前回と同様に、生物学が単なる暗記の対象ではなく、探究の楽しさにあふれた魅力的な学問であるというメッセージを、高校生をはじめとする学習者を含め、広く社会に向けて発信することである。